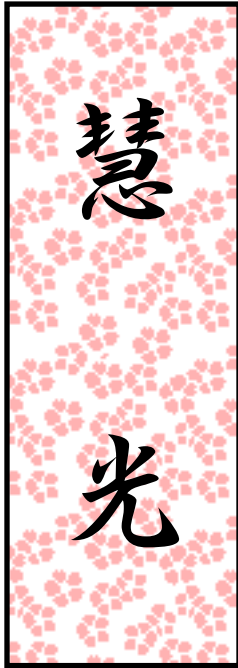




▲ 待望の開花、蓮の花 (7月31日撮影・当山)



金光寺寺報
第218号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

涅槃の真因は ただ信心をもってす

親鸞聖人は『教行信証』信文類で、「信心」とは複雑なものではない「一心」のことであり、涅槃の真実の因であるということを実証されています。

「涅槃」は梵語ニルヴァーナの音写とされ、意識では「滅度」とされています。これは釈尊以来、迷いの世界である輪廻を解脱するものとして、仏教で一貫して目標とされている静かなさとの境地（涅槃寂靜）のことをいいます。その涅槃に至る道には、初期仏教以来、瞑想、六波羅蜜、天台の止観、真言の三密、禅など、さまざまな方法（行）が提唱され、浄土教も釈尊一代の仏教の流れにあり、浄土に往生した後に得るといふ相違はありますが、目標はやはり同じく涅槃です。

また、今月のことばの表現は、おそらく法然聖人の『選択集』を承けたものと考えられ

ます。「生死の家には疑をもって所止となし、涅槃の城には信をもって能入となす（迷いの世界に輪廻し続けるのは、本願を疑いはからうからであり、さとのり世界に入るには、ただ本願を信じるよりほかはない）」。

親鸞聖人はおそらくこの文を継承して、その涅槃の本原因が「信心」であるとし、「信心」が涅槃の真因であるとされました。

今月のことばは、「涅槃の真因はただ信心をもってす」という語り方によって法然聖人の念仏往生の教えを説かれたものです。それは、「ただ信心」という複雑でない言い方によって多くの人を誘引し、伝統にしばられず、人間の内面に焦点をあてて新しい仏道というものを示された言葉といえます。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日には緊急を除き仏事は休みます。よろしくお願いいたします。

- ◎ 8 月 19日(月) ~ 20日(火)
21日(水) 終 日
23日(金) 終 日
- ◎ 9 月 16日(月) 終 日
23日(日) 終 日
- ◎ 10 月 8日(火) 終 日
20日(日) 終 日
- ◎ 11 月 15日(金) 終 日

下記の日には仏事はお受けできません。よろしくお願いいたします。

10月6日(日) ~ 10月7日(月)

ホームページ開いています。

URL <https://konkouji.jp/>

8月8日現在アクセス数 91,707人

仏教名言ノート

天上天下唯我独尊
「あの男にも困ったものだよ。自分だけが偉いと思いついてるのだから。マツタク唯我独尊だよ」
天上天下唯我独尊
この言葉は文字どおり、「世界中でも勝れたもの」という意味なので、世間が「独り善がりのうぬぼれ」と誤解しても、無理はないかもしれませぬ。
しかし、これはお釈迦さまの言葉です。仏典には、生まれたばかりのお釈

迦さまが七歩あゆみ、右手を天に左手を地に指差して宣言した言葉と伝えられ、誕生儀ともいわれています。
『長阿含経』によると、元来、ウィパッシ仏という、はるかに昔の仏が誕生したときに唱えた同趣旨の偈でした。お釈迦さまの誕生のとき、他の人びとが賞賛した言葉となり、やがて、お釈迦さま自身の宣言になりました。
また、お釈迦さまが成道後、ペナリスに赴かれる途中で出会ったウパカに、同じ趣旨の偈を説かれています。
ところで、この「我」はもちろん、お釈迦様自身のことですが、それを私たち一人ひとりの「我」と考えたらどうでしょう。

私という人間は、この世でただ一人の人間であり、誰もとってかわることのできない、かけがえのない存在です。国や民族、社会的地位や財産などにかかわらず、およそ人が人であるかぎり、誰でも生まれながらにして尊いのです。だから一人ひとりのいのちの尊厳を自覚したいものです。
この言葉は、私たち人間の一人ひとりになりかわって宣言している言葉だと考えたらいかがでしょうか。
四月八日は花まつり、お釈迦さまの誕生をお祝いする日です。
(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「続・仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと

しめがた何し三つ日三満きし購芽こか社話う進ううたけ変をかもたシでね
よをめ。とたつ目ほつ開、ま入がとらか休な路か。てなすげそくし。久し
う二。来か。目がどつに着ししつで八ら題るの。一今九被るでそれさんし。う
かつを年育初は今しきないたたかし月購。か予で。安心のととでしに間になほどちし。の
？に一。はてめ育へたまりたが会ずたに入今分報も。心といと直も。りどちし。の
(しつ株るてつ七らしまら、社やがはし春か円油。松。ししがとな満ま。とにいきかにの宇せき敵
ま増分このこ日散たしあ直にき、見た京りは断。井出で、ででく開しつ▼い花合しなな花治んいで
卓来蓮器きし枯でた目花う芽わまる、市。のす。郎るのへまたれす。は芽間がせし、と七の▼でね
)でか大しがま。二四はにつを。花の月会閑ど。よそし続大業おば